



誠・力・光

令和6年11月12日

練馬区立北町中学校

学校だより 11月号

互いに高め合う学び

校長 中嶋 雅彦

「基本的な作図は定着していますか?」

「はい、できています。」

「少し、最後の問題が難しくありませんか?」「子どもたちの意欲を高められるようにします。」

数学科の教師が私に授業研究の学習指導案を提出する際に交わした言葉です。また、ふと机上を見ると美術科の学習指導案も置かれています。11月は、子どもたちの学びの充実のために、教員の指導力向上を目指す取り組みが多く行われます。定期的な学校内での研修だけではなく、元校長の学校教育アドバイザーによるもの、練馬区中学校教育研究会によるものなど、今月は午前1回、午後1回と忙しく行われる日もあります。

本校でも学習指導要領に則り、授業作りが行われています。しかし、そこにいる子どもたちは、すべて違った個性をもち、学級という集団としての特徴もあります。この学習指導案は、これから指導を行う子どもたちだけのものです。教師が、その時間のねらいに向かい、生徒を導いていきます。子どもたちが、自らの意思でもっとたくさん学び、成長させようとする力とともに、興味をもち積極的に取り組む魅力ある教材を考え授業を展開させます。数学科、英語科においては、少人数授業の指導方法を工夫（少人数制・習熟度別）し、生徒の実態に応じてそのグループを編成することにより、一人一人の学習活動時間を充実させ、個に応じた授業を展開しています。

北町中では学校内だけでなく練馬区、東京都で行われる研修会を活用し、今そこにいる子どもたちに合った学習指導案を作りよりよい授業を生み出しています。東京都研修センターによる「東京教師道場」では、東京都公立学校の児童・生徒の学力向上を図るため、2年間にわたる授業研究を通して、教員の授業力を一層高めるとともに、他の教員を指導する資質・能力を育成しています。この研修には、本校から2名の教員が参加しています。本年度で終了を迎える教員が、その成果の授業を公開しました。ピカソの「ゲルニカ」を鑑賞し、作者の心情や表現の意図を班で話し合い、学びの質を高めていました。その後の協議会では、教員が授業力向上のために他の教員との意見交換を行い、互いにその指導力を高めます。

北町中学校では、これからも生徒も教職員も人との関わりを通して、自他の違いを知り、ともに大切にしていきながら自らの幸せを見つけるために必要な学ぶ力を身に付けていきたいと考えています。